

国際交流基金 日本語教授法シリーズ10

『中・上級を教える』

国際交流基金日本語国際センター 久保田美子
Yoshiko_Kubota@jpf.go.jp

目次

1. 「中級」「上級」とは ～「課題」遂行の観点から～
2. 「中級」「上級」の授業で教えること
3. 「中級」「上級」の教え方
4. まとめ

1. 「中級」「上級」とは ～「課題」遂行の観点から～

- 「中級」「上級」とはどのようなレベルだと思えますか、説明してください。
- あなたの学生は「中級」ですか。「上級」ですか。

判断基準は？

学習時間

教科書

語彙

文型

言語行動・課題遂行能力
(～ができる)

…共通に理解できる基準になる

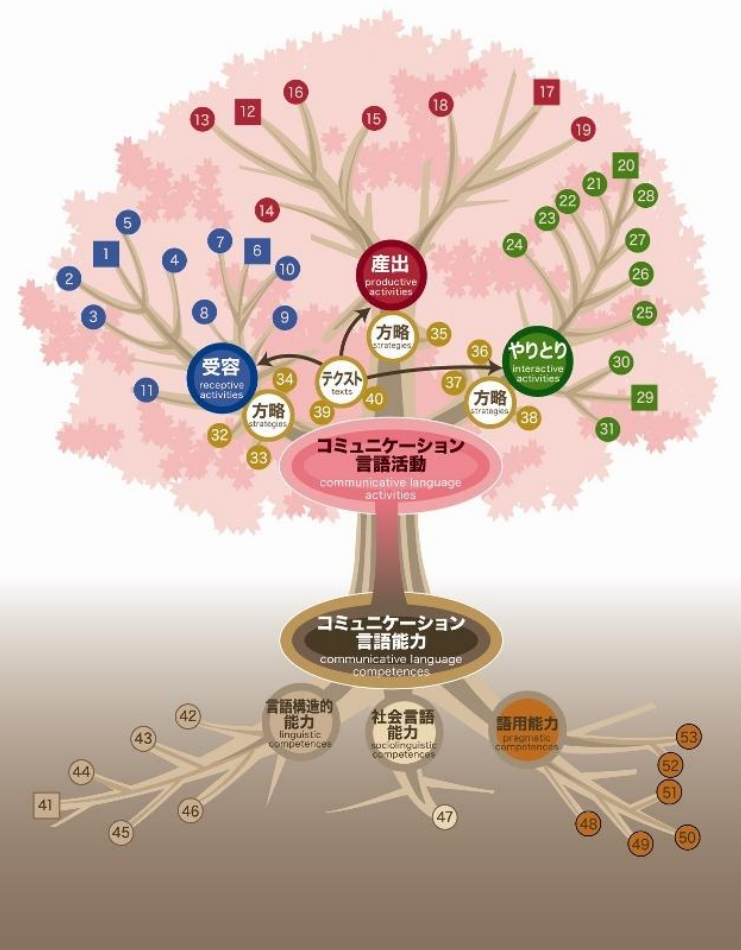
「課題」遂行を中心にした能力基準

- ヨーロッパ共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages : learning, teaching, assessment)
⇒ JF日本語教育スタンダード2010 (<http://jfstandard.jp/>)
みんなの「Can-do」サイト
- ACTFL(The American Council on the Teaching of Foreign Languages:全米外国語教育協会)-OPI(Oral Proficiency Interview:口頭表現能力テスト)
- 日本語能力試験

自立した言語使用者	B2	<p>自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容が理解できる。</p> <p>お互いに緊張しないで母語話者とのやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広範な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。</p>
	B1	<p>仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。</p> <p>その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。</p> <p>身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べるることができる。</p>
基礎段階の言語使用者	A2	<p>ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。</p> <p>簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。</p> <p>自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。</p>
	A1	<p>具体的な要求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。</p> <p>自分や他人を紹介することができ、どこに住んでできるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。</p> <p>もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。</p>

JF日本語教育スタンダード2010

言語によるコミュニケーションのとらえ方 ーJFスタンダードの木ー



言語能力と言語活動の関係を整理したもの

言語によるコミュニケーションのためには、基礎となる**言語能力**が必要。この言語能力を使って、さまざまな**言語活動**を行うことができる

コミュニケーション言語能力 (communicative language competences)

木の根として表現され、
言語によるコミュニケーションを
支えるもの

「言語構造的な能力」: 語彙、文法、発音、
文字、表記などに関する能力
「社会言語能力」: 相手との関係や場
面に応じて適切に言語を使う能力
「語用能力」: ことばを組み立てたり、
役割や目的を理解する能力



コミュニケーション言語活動 (communicative language activities)

言語能力を基盤として、
木の枝のように広がり、
多様性があるもの

読んだり聞いたりする「受容」
話したり書いたりする「産出」
会話などを行う「やりとり」、
さらにその3つをつなぐ「テキスト」や
それぞれの活動と能力をつなぐ「方略」な
どがある

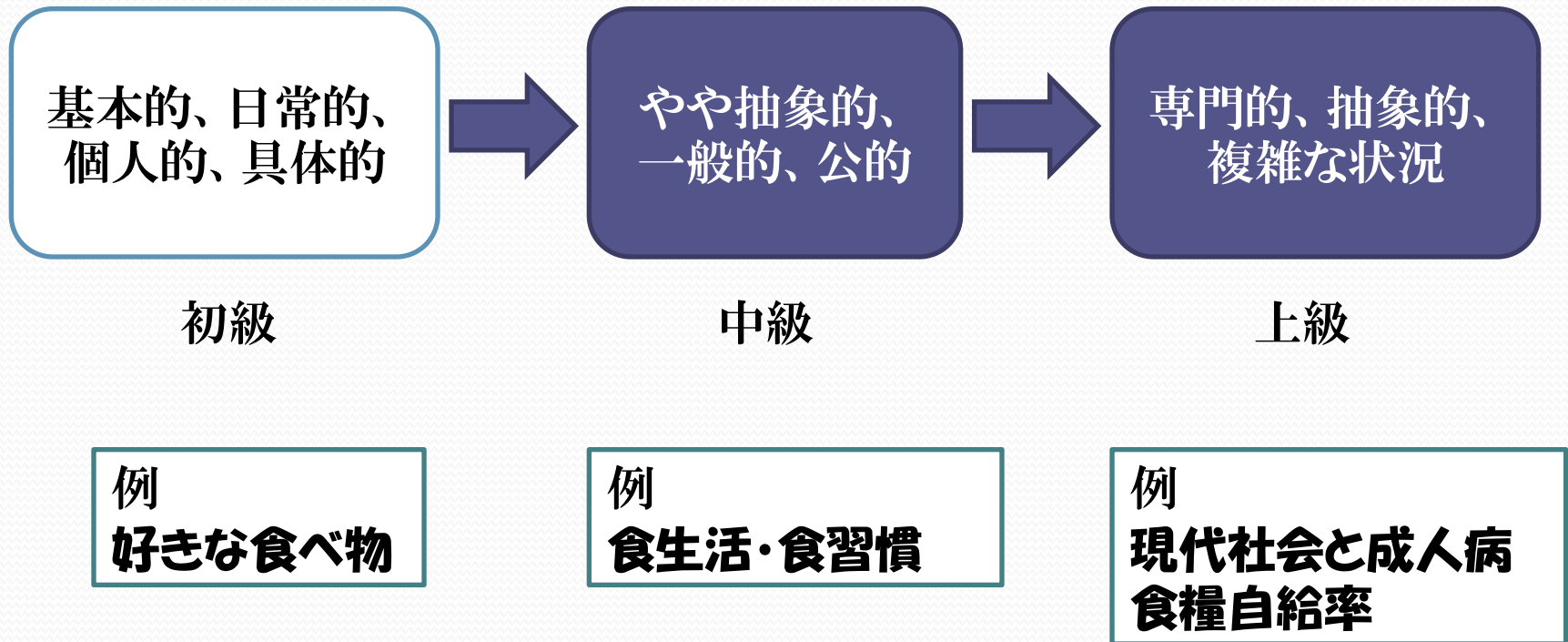
実際にコミュニケーションを行う際には、これら以外にも、文化に対する知識や専門知識、学習能力などさまざまな能力が必要となる

2. 「中級」「上級」の授業で教えること

- 話題、場面
- 課題(できること)
- ことばの知識
 - 文法、語彙、音声、文字・・・
- 談話能力
- 社会言語能力
- ストラテジー能力

話題・場面

- 「中級」「上級」で扱う話題・場面



課題（到達目標と教室活動）

- 「中級」「上級」の課題



例（レストランで）
料理を注文する

例（レストランで）
食べられないものを
説明して注文する

例（レストランで）
メニューにないものを交
渉してつくってもらう

初級・中級・上級レベルと関係する要素

レベル		初級 (基礎的な段階)	中級 (自立した段階)	上級 (熟達した段階)
話題・場面		基本的、日常的、個人的、具体的	やや抽象的、一般的、公的	専門的、抽象的、複雑な状況
課題		単純な課題	→	複雑で困難な課題
ことばの知識	文法	単語 → 短い文 単純な表現 →	短い文 → 長い文 → 段落 微妙な機能の違いやニュアンスの違いを表す	段落 → 副段落
	語彙	よく使う単純な語彙	→ 一般的な語彙 →	専門的な語彙 微妙な意味の違いを表す
	音声	たどたどしい発話 ゆっくり、はっきりした発音の聞き取り	→	流暢な発話 自然な発話の聞き取り
	文字	ひらがな・カタカナ 日常の漢字	→	専門分野の漢字
談話能力		単純な表現 → 文と文の関係性を示す 単純なやり取り →	→	段落間関係性を示す 連続したやりとり
社会言語能力		配慮のいらぬ発話	→	相手に合わせたことばの使い分け 敬語の使用
ストラテジー能力				

コミュニケーション能力を構成する4つの要素

文法能力・社会言語能力・談話能力・ストラテジー能力

Canale & Swain (1980), Canale (1983)

「話題・場面」「到達目標」「教室活動」「言語知識や能力」の
関係 (プリント1参照)

ことばの知識

発音、文字、語彙、文法

- ・・・「中級」「上級」の「課題」を遂行するために必要なもの
- 「課題」遂行の中で教える (配付資料)
- 体系的に整理して教えることも必要

ある人が借りた車を壊してしまったときの謝罪のことばです。下線に次の3つの文が入ったときの、相手に与える印象を考えてください。

「ごめんなさい。お借りした車なんですが、
実は・・・車が/を _____ 。」

1. 木にぶつかって・・・。
2. 木にぶつけて・・・。
3. 木にぶつけてしまっって・・・。

• 語彙

分野別語彙(日常生活、学校生活、
ニュースのことば・・)、連語・・・

• 文法

ボイス(自動詞・他動詞、使役、受身・・)
テンス・アスペクト、待遇表現、複文、
モダリティ(ムード)、終助詞・・・

(例) 手紙を読まれた	(受け身)
手紙を読ませた	(使役)
手紙を読んでもらった	(授受表現)

● 談話能力

《ロールプレイ》

両親が7月に田舎から出てくることになりました。8月の夏季休暇の日程を7月に変更してくれるよう、会社の上司に頼みましょう。

カイト: 部長、今よろしいでしょうか。

山本: ああ、カイト君、どうぞ。何か用事？

カイト: あのう、仕事のことじゃないんですが、ちょっとお願いしたいことがあります。

山本: うちのことかなんか。

カイト: はい。それが、実は両親が7月に来たいと言っています。

で、できたら7月の半ばごろに変えていただきたいと思います。

山本: それは楽しみだね。ほかの人の都合もあるから今何とも言えないけれども、できるだけそうしましょう。

カイト: 勝手に言って申し訳ありません。よろしくお願い致します。

社会言語能力

次の会話は、リンさんが山下さんの家でのホームステイを断るというロールプレイでの会話です。どのような点に問題があると思いますか。

リン：山下さん。

山下：どうかしたんですか。困った顔をして・・・。

リン：山下さんには本当に親切にさせていただいて、このホームステイはとても気に入っていたんですが・・・。

山下：私はリンさんに家にいてもらえるだけでうれしいんですよ。

リン：それが、その・・・実は、山下さんの家にホームステイができなくなりました。

山下：え？

リン：あのう、新しい研修が始まったんですが、その研修センターに泊まらなくてはならないという決まりがあって・・・。

山下：えっ、家にいられない？お部屋だってリンさんのために直したばかりなのに。

リン：でも、研修センターに泊めてもらえることになったんです。だから、本当にすみません。でも、土曜日とか日曜日は自由ですから、山下さんの家に泊まってあげますよ。

● ストラテジー能力

次の料理レシピを読んでみてください。

分からない語彙や表現は推測してみましょう。

分からない語彙や表現について、推測したあとで、隣の人と相談してみてください。

推測するときどのようなことを考えましたか。どのようなことを手掛かりにしましたか。

3. 「中級」「上級」の教え方

- 基本的な考え方

(1) 内容重視

(2) インプットからアウトプットへ

(3) 多技能統合型の授業デザイン

(4) 流暢さ (fluency) の養成

「中級」「上級」の授業の流れ

多技能統合型の授業／インプットからアウトプットへ

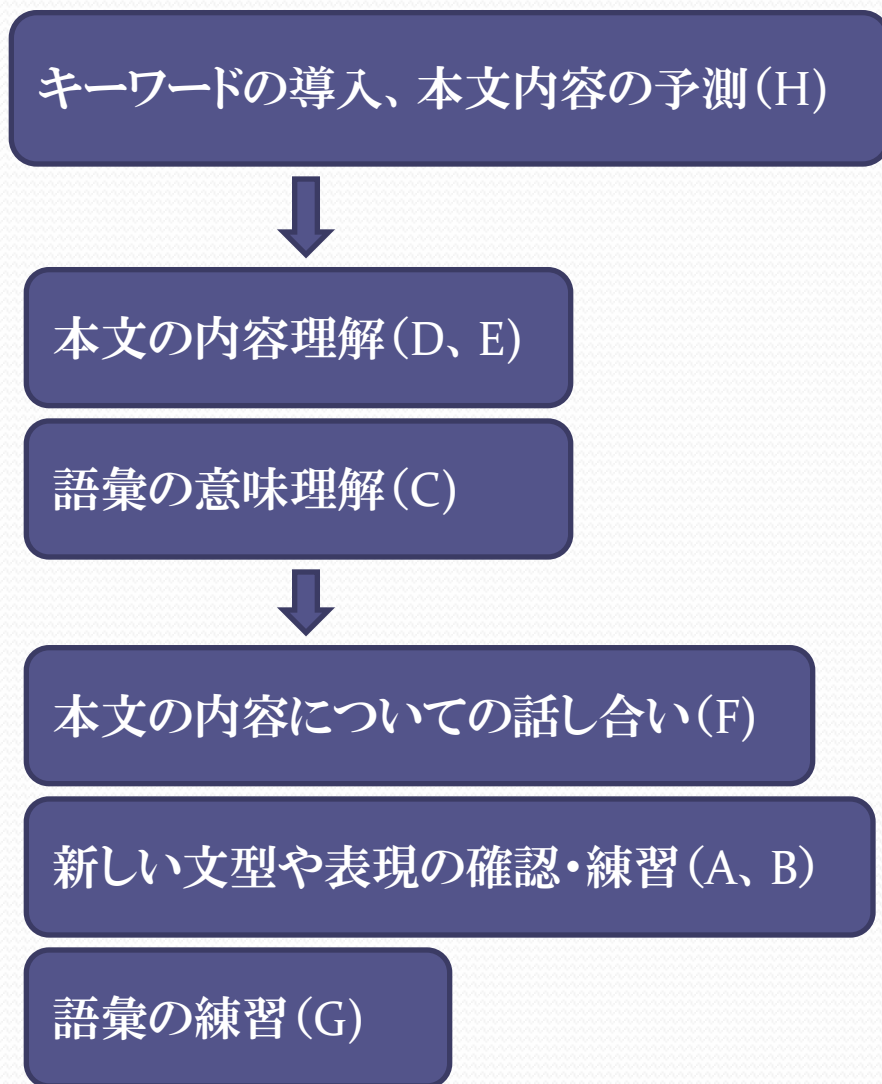
(プリント2)

インプット中心の活動 例) 読解

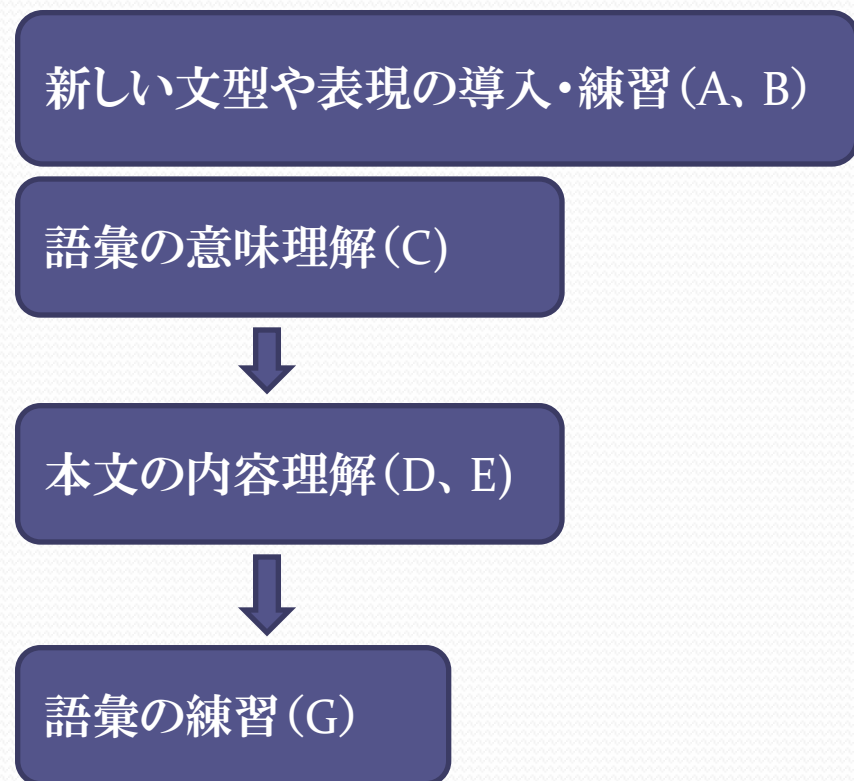
〈考えましょう〉 (プリント3)

- ・読解素材A「車のコミュニケーション」を使った授業を考えます。
- ・活動例A～Hは、この授業で行う活動の例です。
- ・あなたはどのような順番で行いますか。ペアで話し合って考えてください。使わない活動があってもかまいません。

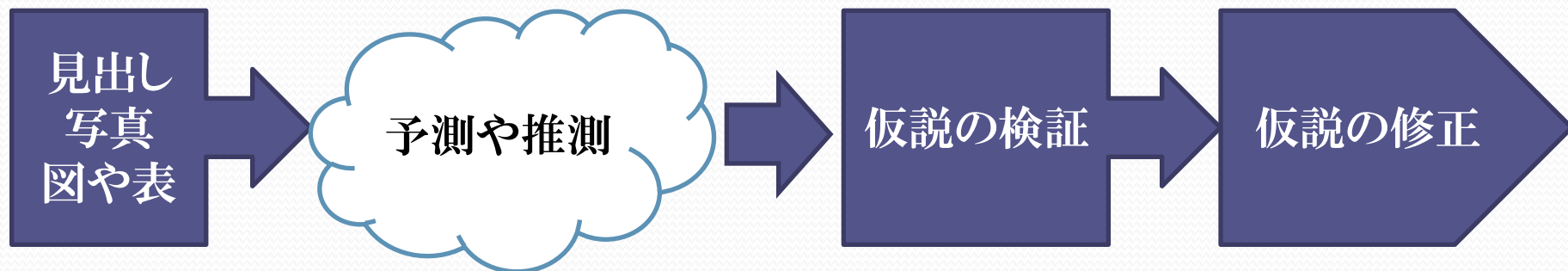
読解授業の流れA



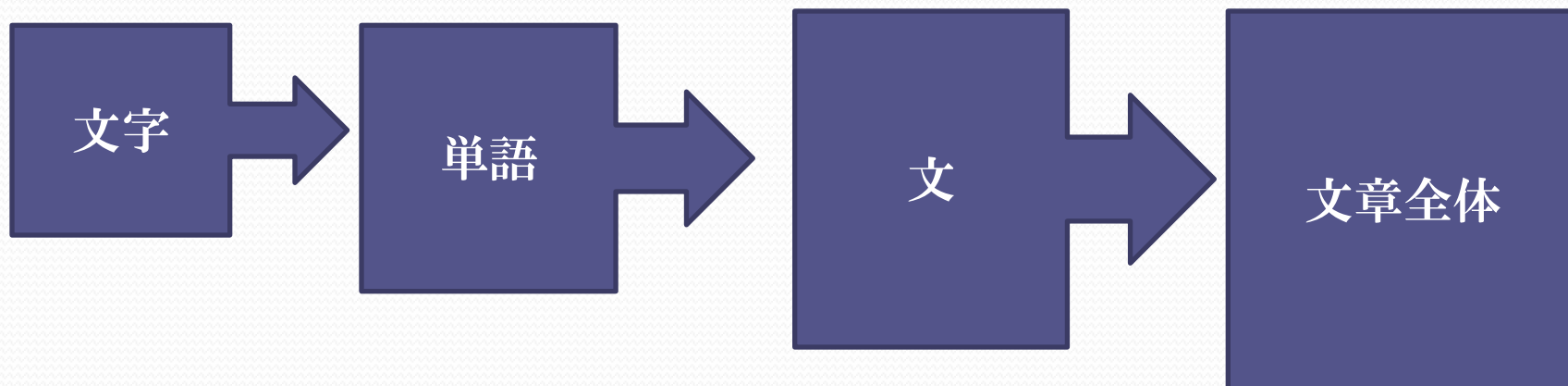
読解授業の流れB



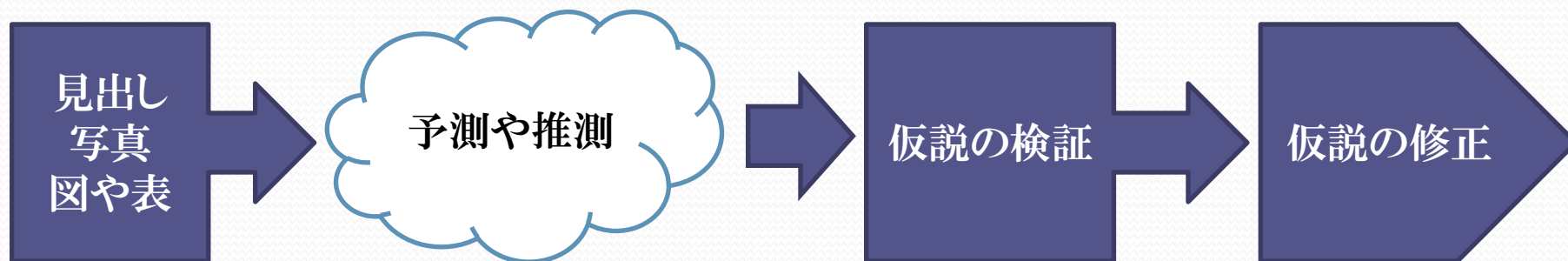
トップダウン・モデル



ボトムアップ・モデル



● トップダウン・モデルの読解授業



文章の中に書かれた情報を受け取るだけの受動的な行為ではなく、母語話者が行っているような能動的な読み方、読解ストラテジーの養成が必要。

なぜ？

「中級」「上級」では、日本語母語話者が接するのと同じような生素材が理解できることが目標。母語話者の読みに近付ける必要がある。

トップダウン・モデル

キーワードの導入、本文内容の予測(H)



本文の内容理解(D、E)



本文の内容についての話し合い(F)

新しい文型や表現の確認・練習(A、B)

語彙の練習(G)

前作業

背景知識(スキーマ)の活性化や
動機づけのために前作業を行いま
しょう

本作業

ピア学習

目的を持って読ませましょう
ストラテジーの使用を促しましょう

後作業

読んだことを次の行動につなげ
ましょう

**言語の学習はこの段階で取り
入れましょう**

ピア学習

ピア・リーディング

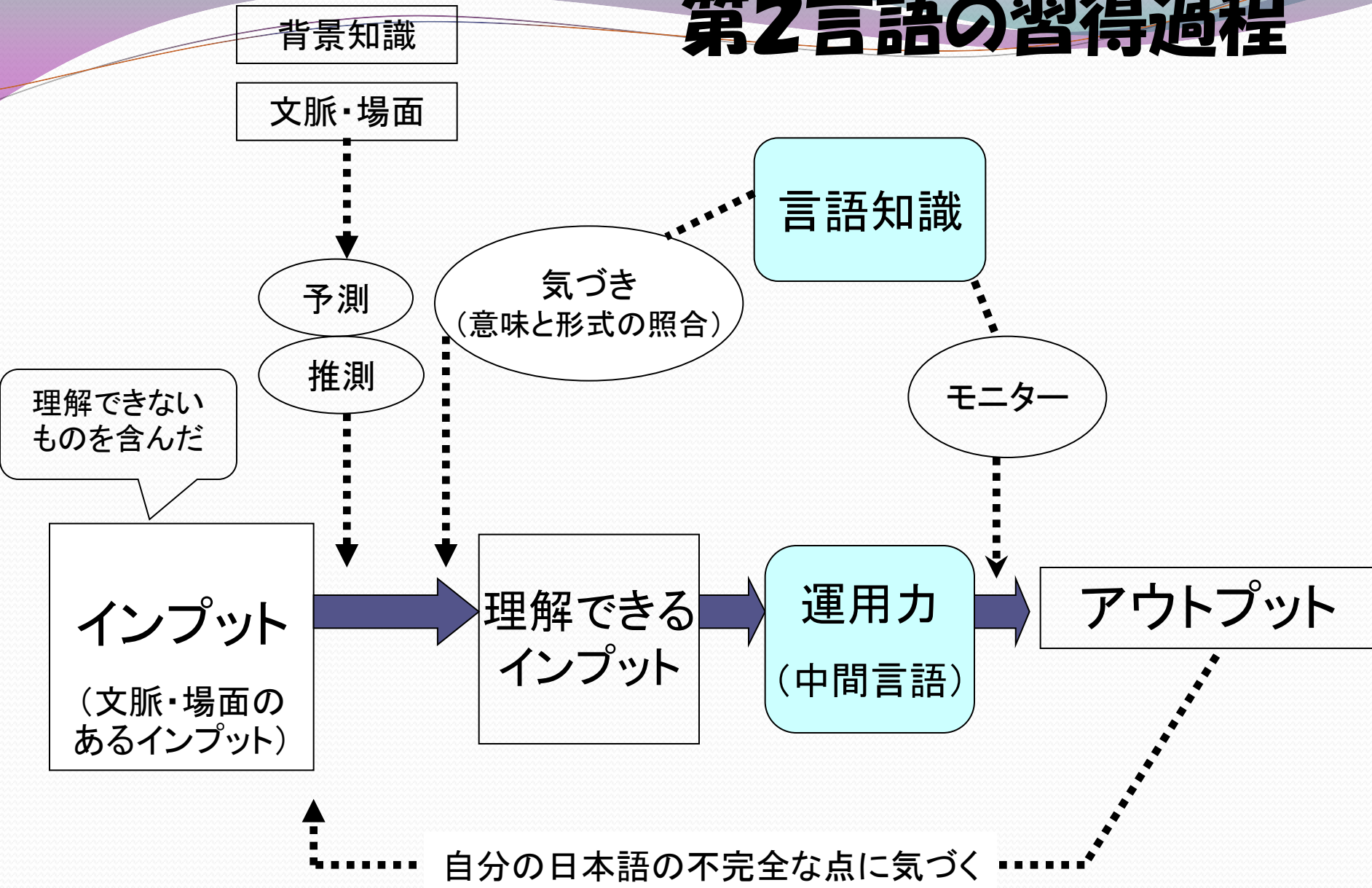
学習者同士が仲間と協力して行う読解活動

1. 読解過程（プロセス）を意識する。仲間から学ぶ。
2. 読んだ情報を提供し合う。

➡ ジグソー・リーディング

学習者間の情報差（インフォメーションギャップ）の利用。
グループで協力して、部分から全体を完成させる。

第2言語の習得過程



語彙や文型・表現の練習

活動例の紹介

- ディクテーション
- 文作成
- テキストの空白埋め
- テキストの復元

ディクテーション

- 聞き取ったことを書く練習

(プリント4)

- ①聴解1と2、聴解3の目的は、それぞれ何ですか。
- ②聴解3で、すぐにCDを聞いてディクテーションさせるのと、
下線に入ることばを考えさせてからCDを聞いて確かめさせるのでは、学習者にとってどのような違いがあると思いますか。

→インプットの中の新しい言語形式（語彙、文法、表記、音声等）に、
学習者の注意を向けさせる:「気づき」を起こさせる。

文作成

(プリント5)

- 練習D、練習E、練習Fは、どう違いますか
 - 学習者の負担が少ないのはどれですか
 - それぞれの良い点、不足している点はどのようなところですか
- 練習Gと練習D、E、Fはどう違いますか？

テキストの空白埋め

(プリント6)

- 練習H、練習Iの良いところはどのようなところですか。

テキストの復元

ディクトグロス

1. 教師が、読解文の一部を音読し、学習者に聞かせる。学習者はメモを取りながら聞く。
2. 学習者はペアまたはグループで、お互いにメモを見て協力しながら、もとの文章をなるべく正確に復元して書く。
3. 学習者は復元した文章を、もとの文章と比べて、確認、修正を行う。
4. 教師は、必要であれば文法項目に関する説明を加える。

テキストの復元(読解後)

- 読解素材A「車のコミュニケーション」の内容を思い出し
ながら、次の単語を使って、もとの文章と同じ文章を作っ
てください。

自動車

運転免許

自動車運転教習所

交通規則

運転の技術

卒業

学習

街

身につける

運転手同士

コミュニケーション

● 文章理解の後に行う語彙や文型・表現の練習

- ・ディクテーション
- ・文作成
- ・テキストの空白埋め
- ・テキストの復元

気づき

仮説検証

なぜ？

- ・習得が起こるには意味がわかるだけでなく、そこで使われた言語形式に気づき、意味・用法について自分で仮説を立てて検証(仮説検証)していくことが必要。
- ・「内容重視」の授業を進めながら、語彙や文型・表現などの新しい言語形式への気づきをうながすことが大切。

アウトプット中心の活動 例) 会話

<考えましょう> (プリント7)

- ・ロールプレイの流れA とB を見て、それぞれの良いところについて考えてください。
- **タスク先行型のロールプレイ**が初級後半以降で特に効果的なのはなぜだと思いますか。

流暢さを養成するための活動

<やってみましょう>

「相手を変えて話そう4／3／2」を体験して流暢さについて考えてみましょう。

素材と課題の問題

「中級」「上級」になると、本物に近い素材を使って、実際に近い活動を行うようになります。

- 本物の素材を使うときに問題になることは何ですか。
- 実際に近い活動をするときに問題になることは何ですか。

素材に含まれている語彙や
文型が難しすぎないか

活動の評価はどうするのか

インターネット上のツールを
利用する

言語知識面だけでなく、
さまざまな観点からの
評価をする

学習者自身に目標を立て
させ、自分でも評価させる

日本人の友人が自分のために次のようなメモを書িয়েくれました。
このような素材についてどう考えますか。

肉じゃがの作り方

材料： 玉ねぎ 中1こ ジャがいも 中2こ
 肉 100グラム にんじん 中1本
 水 1カップ さとう、しょうゆ、酒

- 作り方：
- ①玉ねぎ、肉、じゃがいも、にんじんを一口大に切る。
 - ②玉ねぎを油で炒める。
 - ③②の玉ねぎに肉を加えて、さらに炒める。
 - ④③に、じゃがいもとにんじんを加えて、さらに炒める。
 - ⑤④に、水を加えて、ふたをする。弱火で20分煮る。
 - ⑥⑤に、さとう、しょうゆ、酒を加える。
 - ⑦さらに10分煮る。

4. まとめ ～「中級」「上級」を教えるときのポイント～

- 「中級」「上級」のレベルや到達目標を考えると、語彙や文型の知識からではなく、「課題」遂行の観点から考えましょう。
- 何を教えるかは、目標とする「課題」遂行のために何が必要かを考えて決めましょう。
- 「内容重視」の授業をしながら、学習項目に「気づかせる」活動も取り入れましょう。
- ストラテジーの養成や、流暢さの養成を意識した活動を取り入れましょう。
- ピア活動をとり入れましょう。
- 「課題」で用いる素材や、そこで行う活動は、できるだけ本物に近いもの(aithenticなもの)を意識して考えましょう。